

## 平成 26 年度入学試験問題(前期)

# 国 語

### 注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いて見てはならない。
2. 本冊子には、一から三までの3問題が印刷されていて、合計12ページである。  
落丁、乱丁、印刷の不鮮明な箇所等がある場合には、申し出ること。
3. 解答用紙を別に配付している。解答は、解答用紙の指定された箇所に記入すること。所定の箇所以外に記入したものは無効である。

---

4. 解答の字数を指定している場合、句読点や符号やかっこ等もそれぞれ一文字分にかえる。
5. 解答用紙の指定された欄に、学部名および受験番号を記入すること。
6. 配付された解答用紙は、持ち帰らないこと。
7. 配付された問題冊子は、持ち帰ること。

— 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

著作権の関係上、省略します。

著作権の関係上、省略します。

著作権の関係上、省略します。

著作権の関係上、省略します。

著作権の関係上、省略します。

(鷺田清一『ひとの現象学』より)

問(一) 傍線あゝおの漢字の読み方を平仮名で記しなさい。

あ 排泄

い 浸れて

う 逝去

え 産着

お 装束

問(二) 傍線カゝコのカタカナを漢字に直しなさい。

カ シンボウ

キ ソマツ

ク ヤツカイモノ

ケ リフジン

コ オンケイ

問(三) 空欄

A

ゝ

D

に入るもつとも適切な語を次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア かえって

イ つまり

ウ たとえば

エ が

問(四)

傍線1「そういう理由」とは、どういう理由か。次の説明文の空欄

A は七字、

イ

ウ

は九字で本文中からそれぞれ抜き出しなさい。

A

ゝ

ウ

に入る適当な語句を、

A では、

イ

のを避けるために、

ウ

が欠かせないという理由。

問(五) 傍線2「しつけ」の基礎」とあるが、これに必要と考えられているのはどのようなものか。本文中の語句を用いて四十字以内で説明しなさい。

問(六) 空欄 I に入る漢字二字を答え、慣用表現を完成させなさい。

I にかける

問(七) 傍線3「(いのち)のベーシックスにふれる経験は、じっさいにはどんどん削除されてきている」とあるが、筆者はそれによつてどのような事態がもたらされると危惧しているか。それがわかるもつとも適切な一文を探し、最初の五字を抜き出しなさい。

問(八) 空欄 II に入る漢字三字の語句を本文中から抜き出しなさい。

問(九) 空欄 III に入るもつとも適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア あらゆる差異を乗り越えて、人びとに共通の幻想を抱かせるための基礎となる
- イ 次々とイメージを変容させつつ、より大きな連帯感を集団に作り出してきた
- ウ 特定の役割をもつ人びとを励まし、人びとを心理的な絆で強く結びつける
- エ 現代の家族のように多様な実態を生み出し、それぞれの集団の画一化を阻止する
- オ どんな集団にも容易に浸透してゆき、集団の構成原理としてはたらく

問(十) 傍線4「何層もある集合住宅」とあるが、そのような住宅が地域の人間関係や暮らしのあり方にどのような問題をもたらしているか。筆者は考えているか。本文の記述に即して百字以内で説明しなさい。

問(十一) 傍線5「いきなり本番」とあるが、どういふことか。かつての地域社会での養育のあり方と現代のそれとの違いがわかるように、本文中の語句を用いて百三十字以内で説明しなさい。



二 次の記事は『平家物語』の一節で、高倉天皇の寵愛する小督こくすが行方知れずとなつたため、天皇が、信頼する源仲国に命じて探し行かせた場面である。これを読んで、後の問いに答えなさい。

著作権の関係上、省略します。

著作権の関係上、省略します。

〔平家物語〕巻第六〔小督〕

(注) ○入道相国—平清盛。 ○大原のおくに思ひたつ事—都の北の大原にて出家すること。

問(十二) 傍線1・3について、主語を補ってわかりやすく現代語訳しなさい。

問(十三) 波線a・cについて、それぞれの動作の主体を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 仲国      イ 君      ウ 小督殿      エ 小女房      オ 入道相国

問(十四) 傍線2「ありがたうおぼえて」について、仲国がこのように思った理由として最もふさわしいものを次の中から選び、

記号で答えなさい。

- ア なかなか都でも聞くことのない珍しい曲を聴くことができ感動したから。
- イ このような田舎の山里でも、美しく琴を弾くことのできる人がいることに感動したから。
- ウ 琴の弾き方が上手なうえに、季節に合った素晴らしい選曲であることに感動したから。
- エ 小督の方も、高倉天皇を恋しく思っていることがわかって感動したから。
- オ 仲国が来ることを期待して、夫を想う曲を弾いていた心遣いに感動したから。

問(十五) 傍線4「いかにかやうの所には御わたり候やらん」とあるが、小督が内裏を出た理由について記した箇所を探し、そのはじめの五字を本文中より抜き出さない。

問(十六) 傍線5「まことに君の御書なりけり」とあるが、「君」は今どのような様子でいるのか、二十字以内で説明しなさい。

問(十七) 波線d、gの助動詞について、意味として適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 推量	イ 過去	ウ 意志	エ 伝聞	オ 打消
カ 詠嘆	キ 完了	ク 尊敬	ケ 断定	コ 可能

問(十八) 傍線6「手なれし琴をひくほどに」とあるが、小督が今夜、琴を弾いていた理由を三十字以内で説明しなさい。

三 次の二つの話を読んで、後の問いに答えなさい(設問の都合で本文中の返り点、送り仮名を省いたところがある)。

著作権の関係上、省略します。

『世説新語』言語篇

(注)

- 鍾毓・鍾会―三国・魏の鍾繇の息子。毓が兄、会が弟。
- 令誉―よい評判。 ○年十三―兄が十三歳の時。 ○文帝―三国・魏の君主(曹丕)。
- 勅―父は二人の息子に命じて。 ○卿―二人称の代名詞。ここでは「おまえ」。
- 戦戦惶惶―恐れおののくさま。 ○漿―飲み物。汁。 ○寐―眠ること。

問(十九) 二重傍線 a と b の読み方を、すべて平仮名で書きなさい。ただし、b については送り仮名も記しなさい。

問(二十) 傍線 1 を、書き下し文にしなさい。

問(二十一) 傍線 2 を、現代語訳しなさい。

問(二十二) 傍線 3 は、「あへてはいせずんばあらず」と読む。この読み方に従って返り点をつけなさい(送り仮名は不要)。

問(二十三) 波線 A「会飲而不拝(会は飲むも拝せず)」とあるが、その理由を三十字以内で説明しなさい。